

久米島の溪流・湿地

(くめじまのけいりゅう・しっち)

湿地のタイプ：溪流、季節的・一時的な小河川

位置：北緯26度22分、東経126度46分／標高：120m～280m／面積：255ha／湿地のタイプ：溪流、季節的・一時的な小河川／保護の制度：生息地等保護区管理地区(種の保存法)／所在地：沖縄県久米島町／登録：2008年10月／国際登録基準：2



白瀬川の中流域のようす



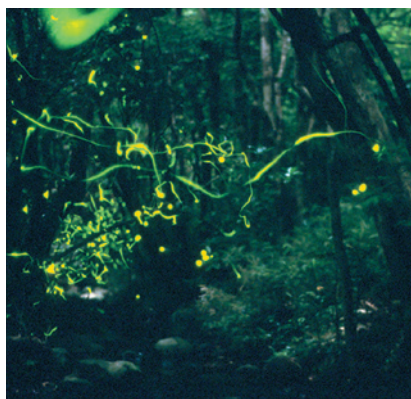
白瀬川源流の景観



キクザトサワヘビ



クメジマミナミサワガニ



クメジマボタルの集団発光



宇江城岳から見た南西側の登録地域(右側の森)

湿地の概要：

久米島は、沖縄本島の西約100kmにある面積約5,900ヘクタール、周囲約48kmの島である。島の北部を西～東へ大岳(230m)～宇江城岳(309m)の丘陵が扇形に連なり、南東にゆるやかな傾斜地が開け、浦地川、白瀬川が流れ下る。北側には海が迫り、急斜面がつづく。

年平均気温22.4℃、年間降水量約2,200mmの亜熱帯気候にある丘陵は、オキナワスダジイ、リュウキュウマツが優占する自然度の高い、うっそうとした森で、集水域からは岩の間をぬって良質の水が涸れることなく供給されている。

生物多様性の宝庫：

久米島の溪流・湿地は、この大岳から宇江城岳を源流として四方に流れる小溪流と、その周辺の湿地生態系である。

あるところでは伏流する溶存酸素量の多い清流によって、湿潤で良好な環境が保たれ、キクザトサワヘビ、クメジマボタル、クメジマミナミサワガニなど絶滅が危惧される多くの久米島固有種が生息する久米島独特の生態系で、学術的価値の高い湿地である。

条約湿地登録地域は「種の保存法」に

基づくキクザトサワヘビ生息地等保護区の管理地区で、保全管理、普及啓発のために久米島自然文化センター、久米島ホテル館などがある。

【キクザトサワヘビ】 全長約60cm。黒褐色で背に黄色の斑点がある、久米島の溪流だけに生息するサワヘビ。水中生活するため鼻孔が上部にある。無毒。サワガニなどを餌にするが、発見・確認数が少なく、くわしい生態はわかっていない。

【クメジマボタル】 体長1.5cm～1.8cm。1993年に発見された久米島固有種。幼虫は溪流に生息しカワニナを食べる。4月～5月上旬に羽化し、集団発光する。

【リュウキュウヤマガメ】 甲羅長13～15cmの陸生ガメ。甲羅の縁がノコギリの歯状にギザギザしている。山地の森林の湿った場所に生息。沖縄諸島固有種。

【その他の主な希少種】 爬虫類クメジマハイ、クメトカゲモドキ／両棲類リュウ

キュウアカガエル／鳥類アマミヤマシギ、カラスバト／魚類キバラヨシノボリ／甲殻類クメジマオオサワガニ／昆虫類クメジマカブトムシ、クメジマノコギリクワガタ／貝類クメジママイマイ、リュウキュウヒダリマキマイマイ、オモロヤマタカマイマイ

●関係自治体

久米島町役場 Tel: 098-985-7121

